



トーヨーカネツ

いとう りお
伊藤 里織さん

物流への「探究心」強く

トーヨーカネツの伊藤里織さん（26）は、ニーズや出入荷の傾向をもとに、物流センターの設立を検討する顧客にレイアウトを提案する。扱う商品が同じでも、顧客ごとに全く異なるセンターができあがる。伊藤さんは「顧客が求める物流センターの特徴を分析で導くのが楽しい」と探究心は募る一方。（7面に続く）

リケジ
neo 218

潜在的なニーズ発見!



トーヨーカネツ

伊藤 里織さん

ソリューション事業本部
S I 部 S I 第 2 グループ



(1面から続く) 小さい頃から理系科目が好きで、東京理科大学理学部第一部物理学科で理論系の物理学を学びました。就活セミナーで話を聞き、

液化天然ガス (LNG) などの貯蔵タンクを製造するトーヨーカネツで社会のインフラを支える技術に携わりたいたいと思い、入社しました。

物流部門の品質保証部を1年経験し、現在は入荷から出荷まで物流センターのレイアウト提案をしています。まずは情報収集です。顧客のニーズや解決したい課題のヒアリング、顧客の既設の物流センターの見学をします。また「1日に缶ジュースを何本出荷する」といった物量データから出入荷の傾向をエクセルの数式を使って分析。例えば、主力製品であるケース自動保管システム「マルチシャトル」を活用し、作業者が歩かずにピッキングとパッキングを1カ所で行える「GP3」など、どのような設備やシステムであれば顧客の希望を実現できるかを考えます。

分析は特に楽しいです。潜在的なニーズを発見できることもあります。同じ商品を扱っていても、顧客ごとに物流センターは全く異なります。答えをいかに導くか。分からないことは納得するまで追求します。学生時代、数学の問題を解く時も丸暗記でなく仕組みで考えていました。これまで培った理系的思考が今の仕事にも生きています。

考案したレイアウトのプレゼンは緊張しますが、理論的な説明を心がけ、顧客の納得を大事にしています。自ら立候補し、メインで担当した案件で受注をいただけた際はとてもうれしかったです。

熱量を買ってもらえる環境で、上司や先輩の支えも手厚いです。いずれ私も周囲を支えられる人になりたいです。

かわいいキャラクターが大好きです。当社のマスコットキャラクター「タンくん」と「ツツリュー」のぬいぐるみも自費で購入。会社のデスクに飾り、癒やされています。

(文=熊川京花、写真=木本直行)